

新潟県湯沢町におけるヘルスプロモーションの展開

—認知症支援対策の取り組みと課題—

しみず ようこ

○清水洋子¹、国松明美²、松沼瑠美子¹、牧 栄理¹、佐藤 潤¹、
中川陽子¹ (1:東京医療保健大学、2:新潟県湯沢町健康福祉課)

【背景】平成15年町では健康増進計画を策定し、1)各事業の見直しと強化、2)新たなアクションプラン(喫煙予防、未成年飲酒予防、こころの健康対策)によるヘルスプロモーション活動を展開してきた。平成23年こころの健康対策の一貫として、認知症施策を総合的に推進するためのアクションプランを企画し展開した。目的はその取り組みの効果と課題を明らかにすることである。

【方法】1. **内容:**1). 認知症サポーター養成講座、2). 認知症疾患医療センターネットワーク会議、3). 高齢者虐待防止ネットワーク会議、4). 介護者家族交流会の4事業を多機関多職種、研究者、参加者の協働でアクションプラン(長・短期目標、内容、方法、評価)を企画・実施。各事業の効果は事業の目標達成度(理解度)の測定項目を作成し参加者・関係者に質問紙調査を実施。対象には事前に調査の主旨、匿名・任意、回答をもって同意と判断する旨を口頭・文書で説明し了解を得た。本研究は国補助事業「認知症施策総合推進事業」の交付を受け実施。

2. **方法:**1). 認知症の普及啓発を目的に劇団“じよんのび”(多事業所多職種協働によるキャラバンメイト)を結成し、認知症サポーター養成講座を実施。2). 認知症疾患医療センター(以下、センター)の役割、最新の認知症早期診断・治療の理解、センターの活用を図ることを目的に、関係者協働による認知症疾患医療センターネットワーク会議を企画・実施。3). 施設従事者や介護事業所職員が、利用者や家族の尊厳・権利を守る視点でケアや事業所体制を見直し適切なケアを提供ができるよう高齢者虐待防止ネットワーク会議を企画・実施。4). 支援者が家族介護者の思いを理解し、適切なケアを提供することをねらいとして介護者家族交流会を企画・実施。

【結果】1. **効果:**1). 認知症サポーター養成講座参加者(役場職員126名中125名回収、民生委員23名全員回収)に調査した結果、【認知症の知識や態度の理解】13項目中、理解の程度(1-10点)

が最も高かった項目は「認知症の記憶障害(物忘れ)と年齢相応の記憶障害(物忘れ)とは違うことが理解できたと思う」平均値:職員8.1、民生委員8.5であり、他項目も全て平均値7.0以上であった。2). 認知症疾患医療センターネットワーク会議の参加者(関係者23名中回収19名)に調査した結果、①センターと専門医療機関との連携の理解について、大いに・少し理解できた肯定的回答した者は16名(84.2%)、②認知症疾患医療センターと主治医(かかりつけ医)との患者の紹介システムの理解について、肯定的回答は16名(84.2%)、③センターと地域包括支援センターとの連携の理解について、肯定的回答は14名(78.9%)、④専門医療に関わる情報提供・発信の理解について、肯定的回答は14名(78.9%)、⑤専門医療相談の内容理解について肯定的回答は16名(84.2%)、⑥受診調整に関する理解について、肯定的回答は18名(94.7%)であった。3). 高齢者虐待防止ネットワーク会議参加者(31名中回収27名)に調査した結果、①会議に参加することで日ごろの自身のケアを振り返ることができた全員が回答、②高齢者の尊厳や権利を守ったケア(対応)をしていると8割以上が回答、③自分のケアを改善する必要があると9割以上が回答をしていた。4). 介護者家族交流会参加者(7名中回収7名)に調査した結果、気持ちが楽になった3名、自分だけではないと思えた4名、辛い気持ちを言葉にできた2名、参考意見が聞けた5名、負担感が軽くなった1名の回答があった。

今回の成果と課題を明確化し、次年度以降どのようにアクションプランを展開し効果を検証するのか検討することが課題である。

【ラウンドテーブルでの検討課題】

1. 多職種、関係者協働による効果的事業展開と地域連携・ネットワークの強化
 2. 効果的なアクションプランの展開と評価(健康増進計画とアクションプランの関連性、整合性)
- 連絡先: 清水洋子 e-mail: y-shimizu@thcu.ac.jp